2010年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施結果について

―産学連携プログラム科目に対する学生の評価―

Student's evaluations to the subjects of Industry-University collaboration

1．受講した学生による評価のアンケート調査の目的、方法

流通経済大学流通情報学部では、企業等の一線で働く方に講師を依頼し、複数の「実践講座、寄付講座」を開講している。2010年度の開講状況については、物流問題研究№55に掲載したとおりである。本稿は、企業講師による産学連携プログラム科目の内容の適切性・有効性を実証的に検証するために実施した、学生による授業評価結果について、報告するものである。

○アンケート調査方法・調査対象・回収数

・自記式調査票によるアンケート調査（無記名）

・産学連携プログラム科目である「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「日本通運寄付講座」、「全国通運連盟寄付講座」、「ロジスティクス改善演習」を2010年度に受講した学生

・アンケート回収数　271名

2．アンケート回答者の特性

アンケートは、それぞれの科目の開講の最終日に実施しており、回答したのは、履修学生全員ではないものの、履修学生とほぼ近い傾向にあるとみられる。「日通寄付講座」が76人と最も多くなっている。「ロジスティクス実践講座」は36人、「物流マネジメント実践講座」は30人、「国際物流実践講座」は51人となっており、いずれも前年度より増加しており、学生に周知されてきたと考えられる。一方、「ロジスティクス改善演習」は、2010年度にはじめて開講された科目であり、学生に周知しきれなかったこともあり、履修学生は特に少なかった。今後は、学生に周知し、受講生を拡大する必要がある。

最も興味を持っている分野は「物流」が41.8%、次いで「商業流通や経営」が23.5%となっている。全体的に「物流」に対する興味が高く、かつ昨年度より高くなっている。将来就職したい業種は、「情報・通信業」（47.9%）が最も多い。続いて、「卸売業」、「小売業」となっている。「陸運業」は29.1%、「海運業」は18.5%、「空運業」は20.0%、「倉庫・運輸関連業」は35.1%となっている。

3．産学連携プログラム科目に対する評価

3－1　産学連携プログラム科目に対する全体評価、満足度

産学連携プログラム科目での実際の企業の事例紹介については、図表－1のように約9割の学生が興味が持てたと回答している。「た

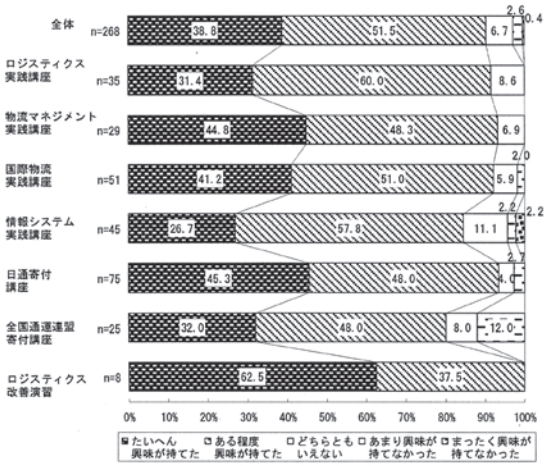
いへん興味を持てた」というのも、4割弱となっており、昨年度とほぼ同じ結果となっている。企業講師の講義内容は、事例を含めたものであることから、より具体的であり、わかりやすく興味が持てたという回答が多い。科目別では、大きな差異は見られない。「ロジスティクス改善演習」では、「たいへん興味を持てた」というのが62.5%と特に多くなっている。

学生の学年によっての差異は、大きくなく、2年生においても「興味が持てた」という回答が多くなっている。早い段階から、受講するのも意味があると考えられる。また、留学生については、「たいへん興味が持てた」という比率が特に高くなっている。日本の企業事例を直接学ぶことに対して、関心が高いといえる。

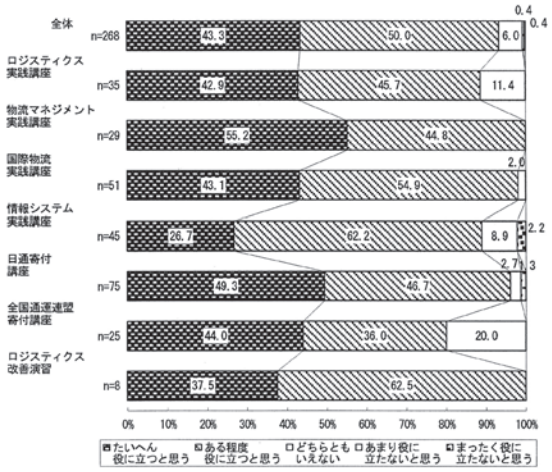
授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つかということについては、役に立つと思う受講生が9割以上となっている。「たいへん役に立つと思う」が43.3%となっている。特に、「物流マネジメント実践講座」では、すべての受講生が役に立つと回答している。「日通寄付講座」でも、「たいへん役に立つと思う」が約5割となっている。学年別、日本人・留学生別には大きな差異はみられない。

授業内容の充実度については、図表－3のように92.5%の学生が充実していたと回答しており、昨年度の88.2%に比べても高くなっている。科目別にみても、すべての科目において、ほぼ約9割の学生が充実していたと回答している。学年別、日本人・留学生別には大きな差異はみられない。

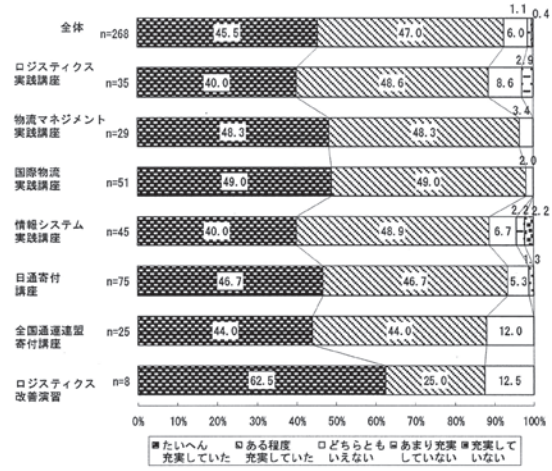
図表－1　実際の企業の事例紹介について



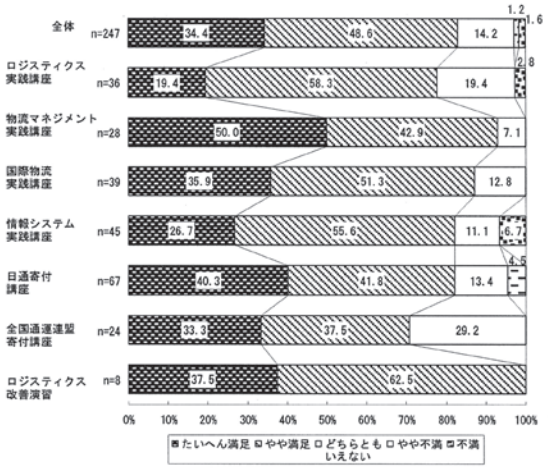
図表－2　授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つか



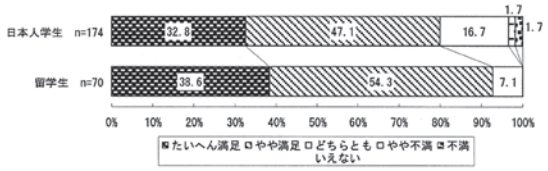
図表－3　授業内容の充実度



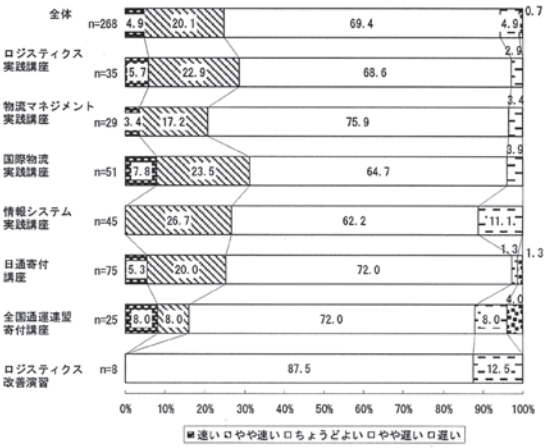
図表－4　満足度



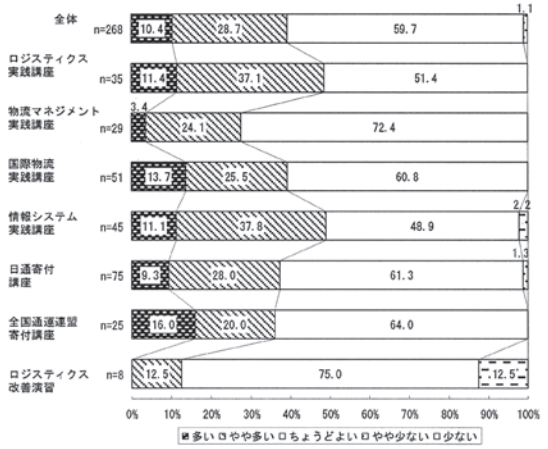
図表－5　日本人・留学生別満足度



図表－6　授業の進み具合



図表－7　授業内容の分量



産学連携プログラム科目に対する満足度は、図表－4のように全体では満足が83.0%となっており、昨年度の80.4％と同様、高い結果となっている。科目別にみても、いずれも満足度が高い結果となっており、特に「物流マネジメント実践講座」では92.9%、「ロジスティクス改善演習」では100％が満足としている。「たいへん満足」も3割を超えている科目が多いが、「ロジスティクス実践講座」については19.4%と、他の科目に比べると若干低い傾向にある。学年別には、大きな差異はみられないが、留学生で特に満足という回答が多くなっている。

３－２　産学連携プログラム科目の進め方等に対する評価

授業の進み具合について、全体では「ちょうどよい」が69.4%と、最も多くなっている。いずれの科目も、6割以上が「ちょうどよい」としている。複数回、既に講義をされた企業講師が多く、学生にあわせた進め方をしているためと考えられる。「国際物流実践講座」で、「速い」、「やや速い」という回答が比較的多くなっている。

授業内容の分量については、図表－7のように「ちょうどよい」という回答が59.7％と最も多いものの、「やや多い」、「多い」という回答もあわせると4割弱となっており、昨年度とほぼ同様の傾向となっている。特に、「ロジスティクス実践講座」、「情報システム実践講座」では、「やや多い」、「多い」という回答が5割弱となっている。一般の企業人向けの講義では分量が多いことが望まれる場

合も多いが、学生では理解しきれない場合も発生している。１回の講義で使用するパワーポイントのシートが100枚を超える場合もあり、多くの内容を紹介するより、要点に絞った説明にするよう、留意する必要がある。

授業内容に対する理解度については、図表－8のように「ある程度理解できた」というのが、全体では58.3%と最も割合が高くなっている。どの科目においても、理解できたという比率はほぼ7割を超えている。学年別には、大きな差異がない。

重点事項の整理・確認などをして授業を進めたかということについては、「十分にしてくれた」、「ある程度してくれた」をあわせて7～8割となっている。

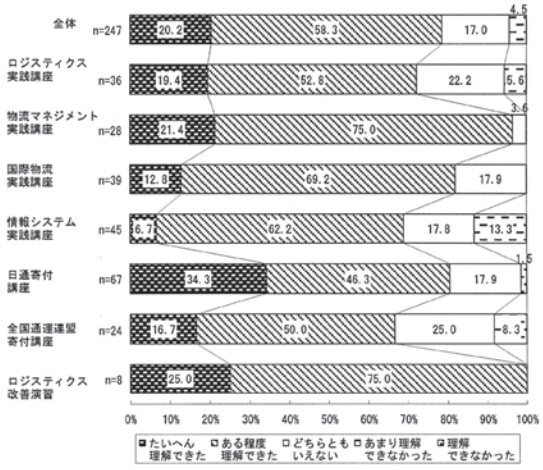
産学連携プログラム科目では、企業講師の授業に対する情熱を約半数が「とても感じられた」と回答しており、各科目別にみても、「ある程度感じられた」とあわせて8～9割が授業に対する企業講師の情熱を感じている。企業現場での経験も含めて、学生に伝えようとする情熱が学生に伝わっていると考えられる。

履修しやすさ、授業の進め方については「特に問題はない」が71.6%と最も多い。しかしながら、一部科目では半期科目あるいは遠隔授業のため、「半期科目なので履修しにくい」が12.7%、「遠隔授業のため、理解しにくい」が20.3%という回答も多くなっている。「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「全国通運連盟寄付講座」は、半期科目であるが、2011年度については、一部科目の時間割を組み合わせ、学生が履修しやすいようにした。遠隔授業についても、2011年度から一部科目はやめて、両キャンパスでの開講とした。

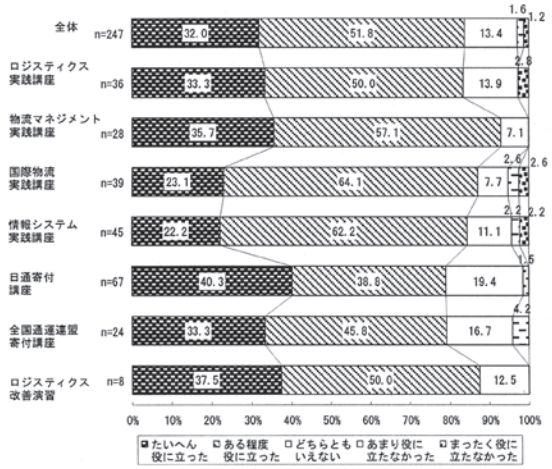
３－３　産学連携プログラム科目のその他の評価

すべての産学連携プログラム科目において、図表－9のようにほぼ8割以上が他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。さらに「たいへん役に立った」も、いずれの科目も3割前後となっている。このよう

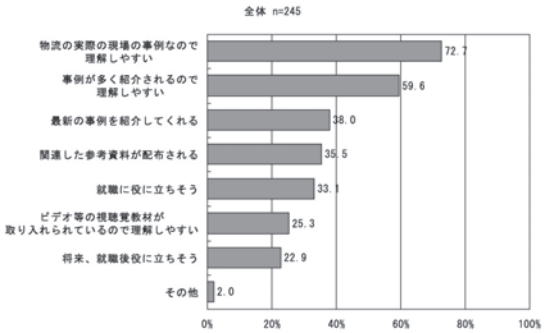
図表－8　授業内容に対する理解度



図表－9　他の講義科目の理解を深めるのに役立ったか



図表－10　講義の良い点（上位3つ）



に産学連携プログラム科目は、その科目自体の評価が高いというだけでなく、他の講義科目等での理解を深めるのに役立っており、その相乗効果は非常に大きいと考えられる。学年別には、差異はないが、留学生において、特に役立ったという回答が多くなっている。

産学連携プログラム科目の企業講師による講義の良い点は、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が72.7%、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」が59.6%となっている。さらに、「最新の事例を紹介してくれる」、「関連した参考資料が配布される」と続いている。就職関連で役立つというよりは、理解しやすいということが特に評価されている。科目別にみても大きな差異はみられず、いずれの科目も「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が最も多くなっている。学年別、日本人・留学生別には、大きな差異はみられない。

以上、産学連携プログラム科目の対する学生の評価は、昨年同様、極めて高いものであり、全体の満足度は83.0%であった。産学連携プログラム科目を通じて、ロジスティクスに関して興味を持ち、充実していたという回答が多くなっている。一般の講義において、ロジスティクスに関する知識を教えても、学生にその重要性がなかなか伝わらない、実感として分かりにくいという問題点を抱えている。学生は、産学連携プログラム科目を、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」という点で、特に評価しており、他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。このように、産学連携プログラム科目の内容は、適切性・有効性という面から、高く評価できる。

注１：2010年度の産学連携プログラムの内容については、「2010年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施状況について」物流問題研究 №55、22 ～ 26頁（http://www.rku.ac.jp/distribution/doc/distribution02_06.pdf）を参照されたい。各科目の毎回のテーマ、講師について掲載してある。

注２：2009年度の産学連携プログラム科目に対する学生の評価については、「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム事業成果報告書」（http://www.rku.ac.jp/renkei/doc/18_03.pdf）を参考されたい。

注３：「ロジスティクス改善演習」については、企業講師による授業はないが企業現場見学を一部導入している。

注４：「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」を実施するに当たり、業界団体、企業、教員の委員で構成される「ロジスティクス産学連携コンソーシアム」が設置されている。